

平成22年10月26日
新庄河川事務所

「大規模土砂災害」を想定した危機管理演習を実施します
～銅山川（大蔵村）で天然ダムが発生した等との想定～

新庄河川事務所では、大規模な土砂災害が発生した場合の関係機関との連携強化・情報の共有・伝達、災害対応の技術力の向上を目的に、下記関係機関と一堂に会して危機管理演習を実施します。

演習方法は役割演技方式による実践的な訓練を実施します。

- | | |
|---------|--|
| 1. 演習日時 | 平成22年11月2日（火）10:00～15:00 |
| 2. 実施場所 | 施設： <u>大蔵村沼台生涯学習センター</u> （旧沼台小中学校）
住所：大蔵村南山1447-1 |
| 3. 参加人員 | 約100名 |
| 4. 参加機関 | 大蔵村役場
山形県 最上総合支庁
陸上自衛隊 第20普通科連隊 連隊本部
気象庁 山形地方气象台
国土交通省 東北地方整備局 |

※ 当日の気象状況等により、演習を中止する場合があります。

※ 「大規模土砂災害」とは、現象が進行性であったり、同時多発的に発生する土石流・火砕流・地滑り・あるいは天然ダム（河道閉塞）など、対応に高度な技術を要する土砂災害や、社会的影響が甚大または被害が広範囲に及ぶ恐れがある土砂災害等のことをいいます。

※ 「役割演技法」とは、現実に近い場面を設定して、参加者にある一つの役割を演じさせることによって、その役割の特性を自ら学ばせたり、問題解決能力を身につけさせる方法のことをいいます。（ロールプレイング方式とも称されます。）

<発表記者先：新庄新聞放送記者会>

問い合わせ先
国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所
山形県新庄市小田島町5-55
TEL:0233-22-0251（代）
副所長（技術） たかはし高橋 たかお孝男（内線204）
建設監督官 いとう伊藤 もとひろ基博（内線501）

平成 22 年度 大規模土砂災害を想定した危機管理演習 概要

【日 時】平成 22 年 11 月 2 日 (火) 9:30~16:00

時間割	内容	備考
9:30	関係者会場集合	
9:30~10:00	事前説明・準備	プレイヤー・コントローラーとも
10:00~15:00	危機管理演習	
15:00~15:30	講評	
15:30~	アンケート記入後解散	プレイヤー・コントローラーとも

【会 場】大蔵村沼台生涯学習センター (旧沼台小学校)

住所:大蔵村南山1447-1

【演習方法】ロールプレイング (役割演技法) 方式の演習

【演習内容】想定災害に対し、各機関が連携した対応の訓練を目的とする

[想定災害概要]

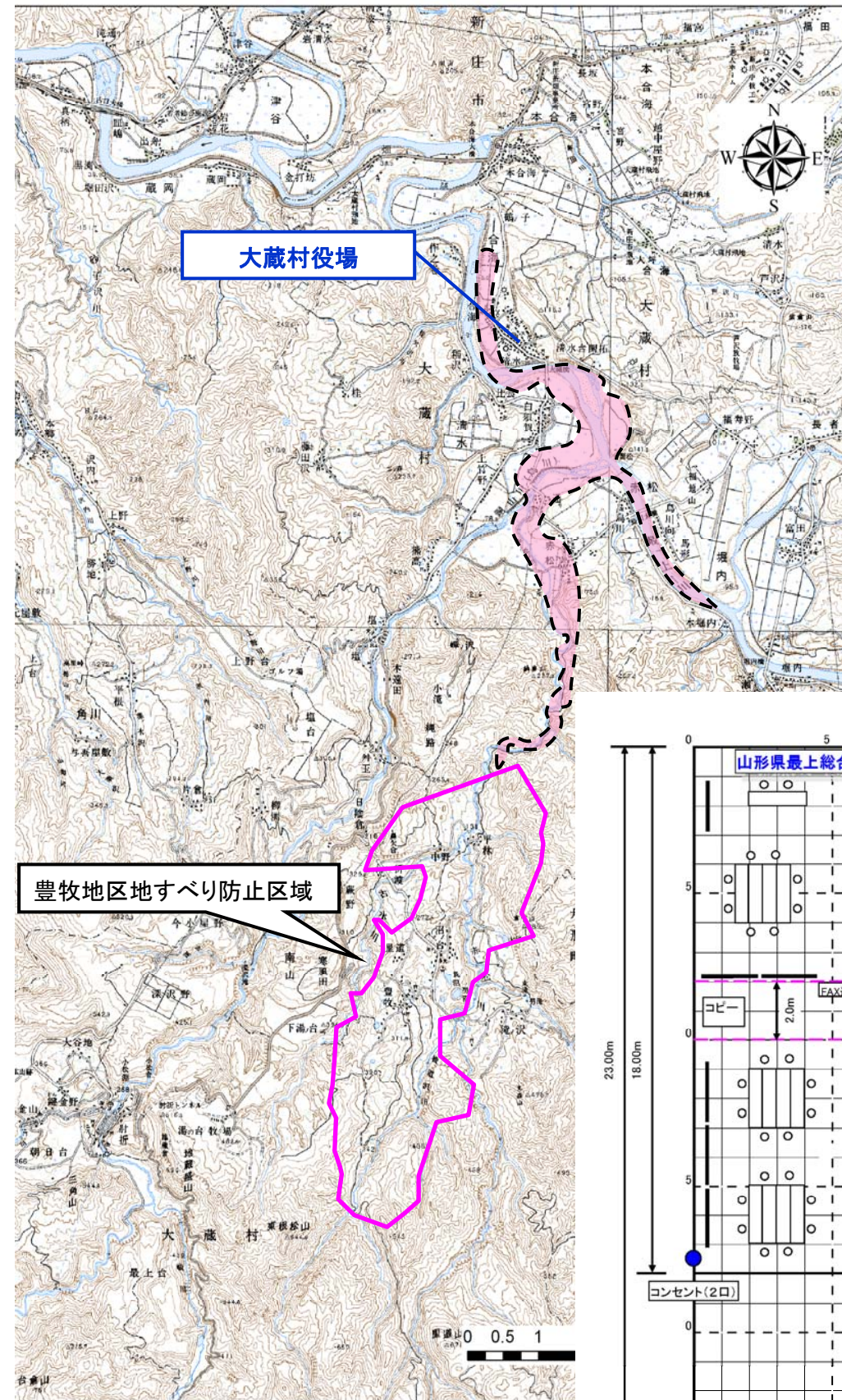
想定時間	想定災害等	備考
訓練開始前	【災害シナリオ①】 既存地すべりでの観測値に異常確認 事務所注意体制	融雪期、 通常降雨
訓練開始直後	【災害シナリオ②・③】 銅山川出張所管内・同管外の大蔵村村 内で土砂災害が複数発生	通常降雨継続 土石流危険渓流での土石 流・急傾斜地崩壊危険箇 所での斜面崩壊
一定時間 経過後	【災害シナリオ④】 豊牧地区●●ブロックが大崩落 赤松川を閉塞し天然ダム形成	

①の警戒下で、②③の土砂災害の発生を想定。事務所・県・村がその対応を実施している状況下で、こんどは④の大規模土砂災害の発生を想定。

【訓練内容】

参加機関	訓練内容
東北地方整備局 新庄河川事務所	①の警戒と県・村との情報共有 ②の土石流災害への県・村等と連携した対応 ④の天然ダム決壊防止対策のための初動対応及び応急対応+警戒・避難のための県・村・自衛隊等との連携と円滑な情報提供等の対応
山形県最上総合支庁	②、③土砂災害における初動対応及び応急対応+④に対し国と連携して村の対応への支援実施
大蔵村	①、②、③、④における、地元住民の安否確認や警戒避難に対する国・県と連携した対応
自衛隊	村に対する人命救助、行方不明者の捜索等の支援対応+県・国との連携による災害情報収集

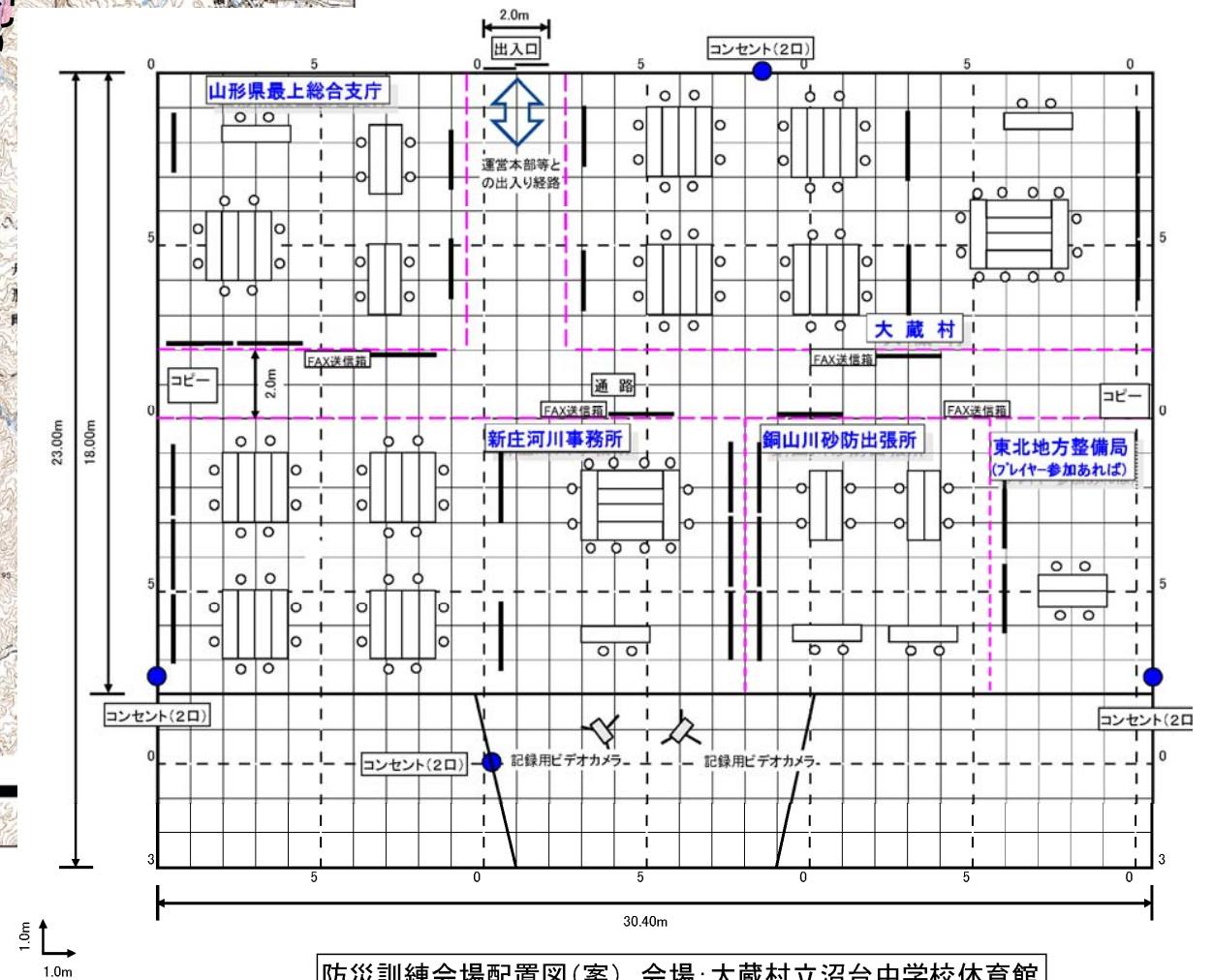
【訓練シナリオ概念図】



【各人員】参加者総人数:100名程度

参加機関	人数		備考
	全体人数	(プレーヤー)	
東北地方整備局	3名	3名	
新庄河川事務所	48名	31名	指揮部 17名
山形県最上総合支庁	5名 (2部署)	4名	指揮部 2名
大蔵村役場	31名 (8部署)	29名	指揮部 2名
自衛隊	6名	5名	指揮部 1名
山形地方气象台	4名	-	指揮部のみ
報道機関	1名	-	調整中
補助人員	8名	-	
合計	106名	72名	

【会場計画 (検討中)】沼台生涯学習センター体育館



防災訓練会場配置図(案) 会場:大蔵村立沼台中学校体育館